

Changes in maternal consciousness after childbirth and related paternal and family support

宮中, 文子

<https://doi.org/10.15017/458567>

出版情報 : 九州芸術工科大学, 2003, 博士 (芸術工学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

第4章 考察

祖母の子育て参加が「母親への発達」に与える影響について検討した。その結果、祖母が孫と同世帯が過半数で、他は近隣に居住していたことや、職業を持つ母親が38%いたことから、祖母の同居や近隣に居住することにより、祖母の子育て参加を可能としていると思われた。子育て参加の理由としては、母親への育児支援とする者が48%、孫の世話が楽しいからとする者も42%に認められた。また、生きがいに孫の世話をあげる祖母が72%で最も多かったが、生きがいはクオリティオブライフに代表される主観的幸福感であると考えられる(古谷野, 1981/84)。祖母は孫との関わりのある生活スタイルを積極的に捉えているものとする。

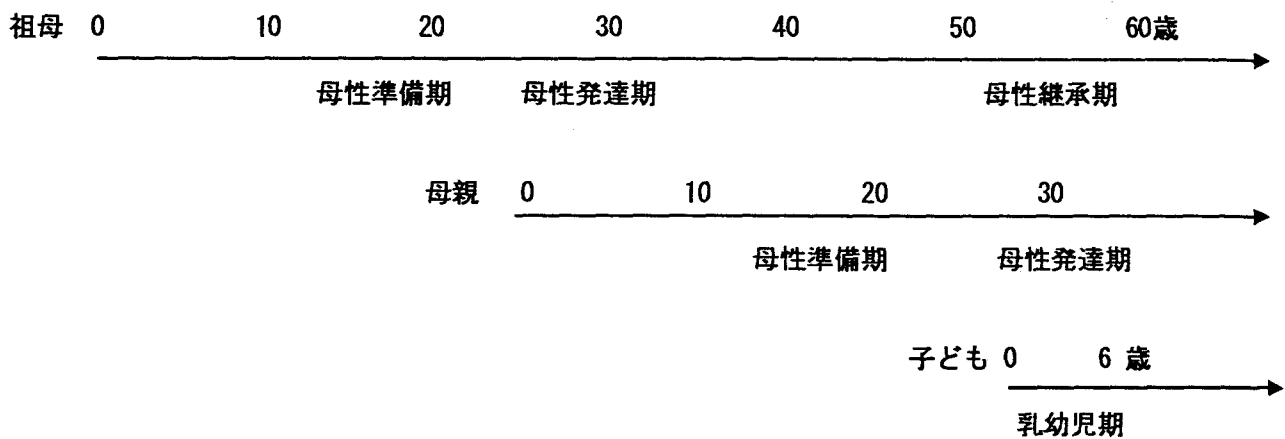
祖母の子育て参加の内容は、社会・文化的子育てが最も多く、乳児期では「あやす・抱く」が89%、早期幼児期では「一緒に遊ぶ」が93%であり殆どの祖母が行っていた。それは直接的子育てでの、乳児期での「おむつ交換」83%、早期幼児期での「排泄の世話」70%などより多く行われていた。また、祖母は「育児の相談」「育児の助言」などの間接的子育てを、乳児期においてはそれぞれ71%、67%が、早期幼児期では65%、63%が行っていた。我が国では、里帰り分娩などにより実母や義母の子育て支援はまだ多く行われている。こうした豊富な子育て経験を生かした祖母の孫への養育的関わりは、私的育児支援として、特に乳児期や早期幼児期においては重要であると考えられる。

祖母の子育て参加は、こうした母親に対する子育て支援の側面の他に、孫との遊びやしつけなどを中心とした孫との関わりの側面が認められる。したがって、祖母の85%が子育て参加を楽しんでいると感じていたが、それは孫との関わりの側面からの気持ちを表していると思われる(松岡ら, 1998)。一方、母親への子育て支援的な側面からは、祖母の48%が、母親の育児方針との相違や戸惑いを感じていた。すなわち、祖母自身にとって、子育て参加は楽しみであり、肯定的に受けとめられる一方、母親と祖母との間の子育て方針の相違などは、困惑や葛藤などの否定的側面もあると考えられた(宮中ら, 1995/1996a, b)。

祖母と母親との間で育児方針が違うことは、一般的にもいわれることであるが、

それは、子育てにはそれぞれの生き方が反映されるからだと思われる。しかし、子育て方針の違いは、必ずしもマイナス面のみではないと思われる。母親への質問票の自由記述には、「私が子どもを叱ると、必ず祖母がかぼうのが腹が立ったが、時には私が叱り子どもを追いつめている時に祖母が助け船になっている時もあると考えると、いい面も悪い面もあるのだと思うようになってきた」とある。出産後早期において、母親が子育てに直面するさまざまな問題の解消において祖母の助言は有効ではないかと考える。祖母の子育て参加は母親への子育て支援として再評価する必要がある。一方、3世代家族と核家族の相違により母親の育児上の問題を持つ割合に差がない（高野ら,1978；松波ら,1978）とする報告もあり、祖母の子育て支援が母親の問題を全て解決するものではないと思われる。

次に母親の被支援感が、祖母から受けた支援が早期幼児期（3歳時）と幼児期後期（5歳時）とではどう違いがあるか、父親とも比較して検討した結果、祖母からの支援については、早期幼児期（3歳時）より幼児期後期（5歳時）では減少していた。一方、父親からの支援はやや多くなっていた。母親が出産後、母親役割を獲得していく過程において、祖母は、子育てへの助言や相談あるいは母親モデルとなるなどを通して母親役割獲得を促す役割をしているものと思われる。また、母親の子育てに対する自信の形成や心配・不安の解消にも祖母の子育て参加が関連すると思われる（松岡ら,1996）。先行研究には育児の労働力としての役割とするもの（高野ら,1978；松波ら,1978）があるが、これは1970年代の調査であり、働く母親のための保育所はかなり整備されてきた現在、祖母の子育て参加は、むしろ、母性継承の役割が大きいものと考えられる。すなわち、図V-9に示すように、祖母が次世代の母親に対して、「母親への発達」を促すことを通じて、母性を継承していくことができると考えられる（前原,1997）。第II部とIII部において、「母親への発達」には、父親の在り方が影響していたことから、基本的には父親と母親の協力による子育てを推進し家族の育児機能の形成・発展を促す支援が重要である。その上で、その家族の育児機能の形成・発展を支える私的な支援者として祖母は重要と考える。



図V-9 女性のライフサイクルと母性準備期・母性発達期・母性継承期

第V部の小括

祖母の子育て参加が「母親への発達」に与える影響について検討した結果、祖母は乳児期や早期幼児期における私的な育児支援として重要であると考えられる。すなわち、祖母の子育て参加は母親が出産後「母親へと発達」していく過程において、それを促す支援者として重要と考える。

引用文献

- 厚生統計協会(1992)：国民衛生の動向,43-47.
- 厚生統計協会(1994)：国民衛生の動向,42-46.
- 木村尚三郎, 伊藤牧夫, 上出弘之, 島田晴雄, 袖井孝子, 谷昌恒, 寺田千代乃, 中村桂子, 深谷和子(1990)：これからの家庭と子育てに関する懇談会報告書, 母子保健, 371, 17-20.
- 古谷野亘(1981)：生きがいの測定－改定PGCモラル・スケールの分析, 老年社会科学, 3, 83-95.
- 古谷野亘(1984)：主観的幸福感の測定と要因分析, 社会老年学, 20, 59 - 64.
- 前原澄子(1997)：母性とは, 母子保健情報, 36, 2-4
- 松岡知子, 岩脇陽子, 宮中文子(1997)：母親からみた祖母の子育て支援の実態, 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要, 6(2), 15-23.
- 松岡知子, 岩脇陽子, 山口三貴子, 堀内寛子(1998)：新生児期の孫を持つ祖母の子育て参加に対する気持ち, 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要, 7(2), 109-118.
- 松岡知子, 宮中文子, 岩脇陽子(1996)：祖母の子育て参加が母親に与える影響について, 母性衛生, 37(1), 91-98.
- 松波昭夫, 高野陽, 小渡有明, 羽室俊子, 江口加代子, 加藤恵子(1978)：家族形態と3歳児の養育に関する調査研究, 小児保健研究, 37(1), 33-38,
- 宮中文子, 岩脇陽子, 松岡知子, 田村玲子, 吉田菊代(1996 a)：中高年女性(祖母)の子育て参加の実態と心理的健康との関連性について(第2報), 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要, 5(2), 55-61.
- 宮中文子, 松岡知子, 西田茂樹, 岩脇陽子(1996 b)：祖母の子育て参加の実態について, 小児保健研究, 55(1), 82-87.
- 宮中文子, 松岡知子, 西田茂樹, 岩脇陽子, 中谷公子, 中島健二(1995)：中高年女性(祖母)の子育て参加の実態と心理的健康との関連について(第1報), 老年社会科学, 17(1), 21-29.

日本子ども家庭総合研究所(1995)編：日本子ども資料年鑑第4巻，KTG 中央出版，221-225.

清水美知子（1994）：孫育てをめぐる親と祖父母の意識，家庭問題研究書研究報告，2-7.

高橋種昭，高野陽，小宮山要，窪龍子，丹羽勝子(1990)：小児の養育における父親の役割について，平成元年度厚生省心身障害研究報告書，216-223.

高野陽，松波昭夫，小渡有明，羽室俊子，江口加代子，加藤恵子（1978）：家族形態と育児について，小児保健研究，36(6)，398-403.